

岐阜県立飛騨高山高等学校

学校長 丹羽 俊文

学校住所 (岡本キャンパス) 高山市下岡本町 2000-30 電話 0577-32-5320
(山田キャンパス) 高山市山田町711 電話 0577-33-1060

1 会議の名称 平成26年度岐阜県立飛騨高山高等学校 学校評議員の会議 (第2回)

2 会議の構成

委員	清水 洋子	地元企業役員 (欠席)
	白野登美子	高山商店街振興組合女性部 (欠席)
	谷口 寿夫	飛騨農業協同組合代表専務理事
	松川 英明	高山グリーンホテル常務取締役
	美素ひとみ	岐阜県指導農業士
		(委員名は五十音順)
育友会	渡邊 義盛	全日制育友会長
	山田 猛	定時制育友会長 (欠席)
学校側	丹羽 俊文	校長
	宮田 典佳	副校長 (全日制山田キャンパス)
	和田 英宏	副校長 (定時制・通信制)
	岩佐 智子	事務長
	細江 雅紀	教頭 (全日制岡本キャンパス)
	高田 広彦	教頭 (全日制岡本キャンパス)
	瀬木 宏一	教頭 (全日制山田キャンパス)
	日江井孝浩	教頭 (定時制)
	金子 佳弘	教頭 (通信制)
	大野 貴司	教諭 (全日制山田キャンパス生徒指導部長、記録)

3 会議の目的 学校運営等について、地域住民や有識者から幅広く意見を聞き、地域社会からの支援・協力を得て、開かれた特色ある学校づくりを推進する。

4 会議の開催 平成27年1月23日(金) 14:40~15:40 高山市民文化会館 2-2室
学校評議員3名、育友会1名、学校側10名が出席

5 会議の概要 (進行 瀬木教頭)
開会のことば (宮田副校長)
学校長あいさつ (丹羽校長)
今年度の学校状況の説明
生徒・保護者等を対象とするアンケート結果と分析
全日制 岡本キャンパス (細江教頭) 山田キャンパス (瀬木教頭)
定時制 (日江井教頭)
通信制 (金子教頭)
学校関係者評価、学校へのご意見、ご要望等
閉会のことば (和田副校長)

(1) 学校長あいさつ

この時期は学校としてまとめの時期であり、同時に次年度へ向けての準備の時期でもあります。本日行われました学習成果発表会をはじめ、本校に対しての幅広いご意見をいただければありがたいと思います。よろしくお願いいたします。

(2) 今年度の学校状況の説明

<全日制 岡本キャンパス>

- ・4学科（普通科・情報処理科・ビジネス科・生活文化科）があり、591名の生徒が学んでいる。
- ・普通科は平日の補習に加え、夏休みの朝7時から夜8時頃まで受験補習に取り組むなど進学対策として補習を充実させており、進学への手ごたえを感じている。
- ・情報処理科では、難関の国家試験「応用情報技術者試験」に合格した。
- ・「山ぶどうアイス」などの商品開発や「山高朝市」などでの販売実習に力を入れている。
- ・生活文化科では、「スイーツ甲子園」の東海北信越ブロック大会に県下で唯一出場した。
- ・部活動では、女子ハンドボール部が3年連続14回目のインターハイ出場を決めた。また、部活動としてではないが、レスリング女子で世界大会において金メダルを獲得した。
- ・MSリーダーズには、両キャンパスで337名（飛騨地区500名）が登録し、様々なボランティア活動に取り組んでいる。

<全日制 山田キャンパス>

- ・今年度の大きな取組として「専門高校生国際化推進事業」がある。主は「フィリピンでの就労体験学習」であったが、一部の生徒だけでなく、多くの生徒が関わられるような内容を実施した。

〈具体的な内容〉

- ①フィリピンでの就労体験学習（希望生徒8名）
 - ②海外進出企業との交流会（学科ごとに実施）
 - ③JICA国際協力出前講座（1年生対象）
 - ④グローバルコミュニケーション講座（全校生徒対象）
 - ⑤オイスカ高校訪問（代表生徒26名）
- ・生徒アンケートの結果、80パーセント以上の生徒がグローバル社会への対応の重要性や、英語力、コミュニケーション能力の向上が大切であると感じている。
 - ・国際感覚を持ちながら地元を大切にできる生徒の育成を目指し、地域との交流を大切にした。

<定時制>

- ・授業は“学び直しの場”というスタンスを持ち、基礎基本を大切に実践している。
- ・生徒の評価の中で「学校や授業が楽しみになった」の肯定的評価が、前期の76.8%から後期は83.3%に増えている。他の項目においても肯定的評価が90%前後になっている。
- ・英語・数学で行っていたティームティーチングを、今年度から国語でも実施した。
- ・生徒の多くが行事へ積極的に参加しており、文化祭への取組も活発であった。
- ・生徒との二者懇談を年2回、保護者を交えた三者懇談を年3回実施し充実させている。
- ・卒業予定者は、就職が厳しい中よく健闘している。

<通信制>

- ・全保護者（100%）が「通信制はこの地域にはなくてはならない重要な存在である。」と評価しており、生徒にとって“学び直しの場”“高校のやり直しの機会”としての位置付けを意識した教育を行っているところである。
- ・単位取得率が年々低下しており課題となっている。（H23…82%→H25…73%）
- ・日曜スクーリングの出席率は高いが、個別指導の充実を図るために、夜間学習会や特別・個別スクーリング、レポート支援を行って、学習支援の機会を多くしている。
- ・進学希望者が増えており、四大・短大の希望者も複数名いる。

(3) 学習成果発表会の感想および学校へのご要望・ご意見等

意見1 学習成果発表会は今年度も素晴らしく改めて感動した。生徒の学んでいることは、昔と比べ変化してきている。そのような中、それぞれの科の実践・発表が内容の濃いものとなっており、地域にはなくてはならない学校であると感じた。「発表会が行われました。」という紙面掲載だけでなく、実践・発表内容の情報を地域へ発信し中身まで深められれば、より素晴らしくなるのではないかと思う。

内容は異なるが、近年の新規採用者には指示待ち人間が多くなっているように感じている。何かよい対応がないものだろうか。情報を共有したい。

学校側 情報の発信については工夫していく必要があると考えている。具体的にはどのような方法があるか参考意見をお聞きしたい。

意見2 「こんなことをやっているんだ。」という驚きをもってもらえるよう、具体的な取組について発信される必要がある。専門的な内容であるため、広めると同時に深めることを考えると、園芸科学科の発表についても他学科のように地域の専門的機関の中で発表する機会を設けることができればよいのではないかと思う。

意見3 どこの学校も文武両立を目指した教育活動を行われていることと思う。東京オリンピックも開催されることもあり、より運動部活動が活性化するよう願っている。進学については地区内で実績を伸ばしている学校もあるが、飛騨高山高校も補習を充実されるなど進学率を上げるための取組が行われている。国際化という面では、市内のホテルとして外国人と接する機会を提供できればよいとも考える。たとえば、トマトなどの野菜販売をホテル内で行うなども考えられる。

定時制の就職活動や通信制の単位取得率の低下についてはどのような対応がなされているか、また、他校では部活動内部での問題があるように聞いている。飛騨高山高校の現状はどのようなになっているか。

学校側 定時制の就職については、キャリア教育を通じて資料の提供や支援・指導を充実させ、さらに個々の生徒について、教員が企業等に積極的にアプローチを図るなど個別に対応するようにしている。通信制の単位取得については個人の指導の充実を図るとともに、放送教育の利用の充実をテーマに研究を進めている。

学校側 運動部活動内の構成者には、生徒（各学年）・保護者・外部コーチ・教員が考えられるが、それぞれの立場からの意見が強く出されることや、試合に出る、出ない、といったことから問題が生じる場合がある。本校には、3年生が卒業まで活動に携わっている活動部もあり、人としてさらに成長しているように感じている。このようなことも、部活動運営を行う上で大切なことではないかと思う。

意見 4 飛騨高山高校では部活動運営上の問題はないか。

学校側 大きな問題はないものと認識している。学習指導要領では、部活動は生徒の自主的、自発的な参加が大切であると規定している。生徒の参加姿勢は、競技者として取り組みたい生徒と楽しみたい生徒に2分化されている面もあり、保護者についても同様である。また、本校には多くの部活動があるが、全部活動に専門的な知識・指導力をもった顧問を配置することができないのが現状である。高校生活を総合的に捉え、部活動指導をするように努めている。

学校側 専門性の高い部顧問を配置できる部活動では、部顧問が運営全体を担っており、保護者との連携も図られ問題が生じにくいと思われる。一方、専門性の高い部顧問を配置できなかったり異動等により新しい部顧問となった場合、指導や方針に対する意見が出され問題となることがあるが、速やかに対応する姿勢を全顧問がもち部活動運営にあたっている。

意見 5 学校教育では、「よりよい人間関係をつくる」ことが望まれている。その中で、「自ら行動を起こせる人間づくり」のため、様々な方向を目指せるような教育内容のもと目的意識を持ち高校生活を送るようになって欲しい。グローバルな社会では、農業も受け身でなく世界へ売り込んでいく姿勢が必要である。積極性ある後継者が育成され、現役世代を引っ張ってくれることを期待したい。

前回の会議で、部活内のトラブルについて話題になったが、現在どうなっているか。

学校側 解決していると認識している。

意見 6 飛騨高山高校における様々な取組が、生徒の進路や将来に関わるだけでなく、高山の産業の発展に寄与するのではないかと考える。飛騨高山高校の卒業生で一つの会社を設立することができると思っている。人は宝というだけでなく、人は力となっている。

意見 7 情報処理関係の学習は、ワードやエクセルが使いこなせるようになるといった認識でいたが、より発展させ素晴らしい力を身につけているということが分かった。そこまでの内容を学んでいること、すごい力があることを高山の方はどれくらい知っているのか。

話は変わるが、雪が多い今年岡本キャンパスへ上がる道の幅が狭くなり危険な状態になっていた。通学路の安全確保が気になった。

学校側 市の除雪もなかなか手が回らないことがあったが、学校に隣接する道路の一部は、部活動（硬式野球・女子ハンドボール部）の生徒が夕方遅くまで除雪作業を行った。

6 会議のまとめ及び閉会

生徒は教育力の高い所に集まります。教員の指導を素直に受け入れてくれる生徒に対して、教員の指導力を上げることが学校の教育力向上につながると考えております。

今回いただきましたご意見、ご要望については、学校で十分検討して取り入れるとともに、飛騨高山高校としての在り方をしっかり考えていきたいと思っております。

本日は誠にありがとうございました。